

○ **物流**を単なるコストではなく、**新たな価値を創造するサービス**として捉え直し、**より上質で魅力ある産業へと転換**させるため、**次期「総合物流施策大綱」**を策定。

1 サービスの供給制約に対応するための徹底的な物流効率化



【主な施策】

- ・**物流ネットワークの自動化・省人化**の推進(自動運転トラック、自動物流道路など)
- ・効果的な物流体系の構築に向けた**インフラ整備**や**陸・海・空の「新モーダルシフト」**の推進
- ・地域の**ラストマイル配送等の持続可能な提供**の維持・確保

【主なKPI】

- ・自動運転トラックの導入台数(1,000台)
- ・陸・海・空の新モーダルシフト(547億トン扣→677.5億トン扣)
- ・ドローン配送の社会実装件数(17件→174件)

2 物流全体の最適化に向けた商慣行の見直しや荷主・消費者の行動変容、産業構造の転換



【主な施策】

- ・改正物流法等を通じた**荷主・物流事業者・消費者等の連携・協力**の強化
- ・**価格転嫁の円滑化と取引環境の適正化**の推進
- ・トラック適正化2法等を通じた**トラック運送業界全体の構造転換**

【主なKPI】

- ・積載効率(41.3%→44%)
- ・荷待ち・荷役等時間(750時間/年→625時間/年)
- ・多様な受取方法の活用状況(25%程度→50%程度)

3 持続可能な物流サービスの提供に向けた物流人材の地位・能力の向上と労働環境の改善



【主な施策】

- ・トラック・倉庫・鉄道・船舶・港湾・航空等の**物流人材の確保・育成、労働環境の改善、生産性向上**の推進
- ・**トラックドライバーの休憩環境**の改善
- ・**輸送の安全確保**に向けた対策

【主なKPI】

- ・ドライバーの年間所得額平均(全産業平均まで引き上げ)
- ・ドライバーの平均労働時間(全産業平均まで引き下げ)
- ・ドライバーの若年層の割合(全産業平均と同等以上)

4 物流に携わる多様な関係者の連携・協力による物流標準化と物流DX・GXの推進



【主な施策】

- ・フィジカルインターネットの実現を見据えた**物流標準化・デジタル化**の推進
- ・持続可能な地球環境やカーボンニュートラルの実現に向けた**サプライチェーン全体の脱炭素化**の推進

【主なKPI】

- ・標準仕様パレットの導入率(50%以上)
- ・データ連携を進める事業者の割合(50%以上)
- ・脱炭素化された物流施設の数(125拠点→200拠点)

5 厳しさを増す国際情勢や自然災害等に対応したサプライチェーンの高度化・強靱化



【主な施策】

- ・サプライチェーンの高度化を通じた**我が国の物流の国際競争力強化**の実現
- ・我が国の物流システムにおける**経済安全保障**や**サイバーセキュリティ**等の確保
- ・大規模自然災害等に備えた**物流ネットワークの強靱化**

【主なKPI】

- ・成田空港・羽田空港の国際貨物重量(265万トン→328万トン)
- ・物資拠点の非常用電源の導入率(21%→50%)

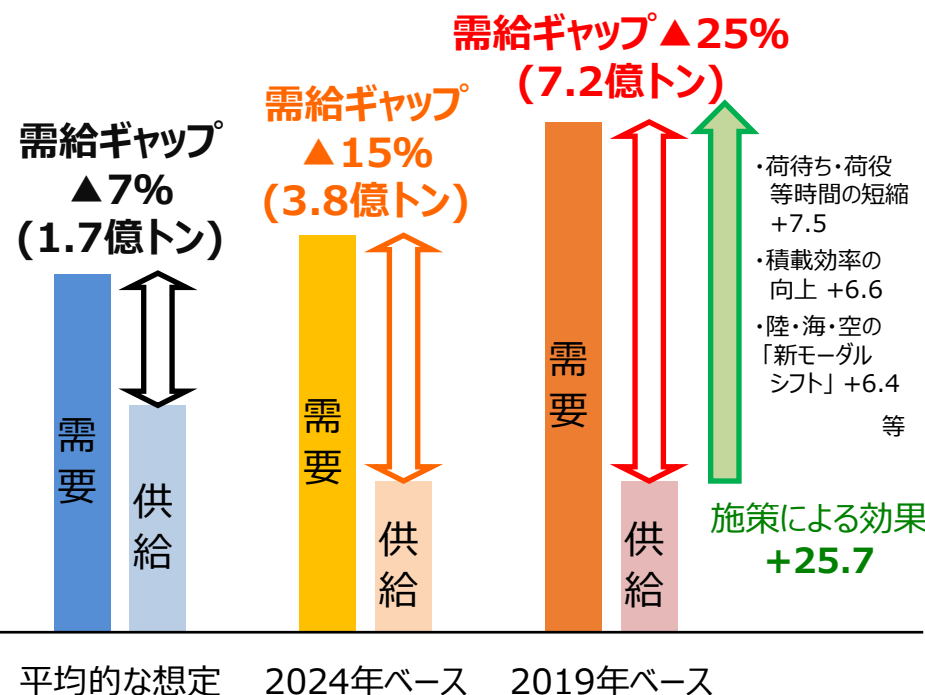
(参考) 2030年度に想定される輸送力不足への対応方針（有識者検討会提言（2026年3月3日公表））

【次期「総合物流施策大綱」を踏まえた施策等による輸送力への効果】

	2030年度
必要な輸送力	97～100～113 (24.3億トン～25.1億トン～28.4億トン) <small>【平均的な想定】 【2024年ベース】 【2019年ベース】</small>
何も施策を講じなかった場合の輸送力不足(①)	▲7～▲15～▲25 (1.7億トン～3.8億トン～7.2億トン)
次期「物流大綱」を踏まえた施策による効果(②)	+25.7
うち荷待ち・荷役等時間の短縮	+7.5
積載効率の向上	+6.6
陸・海・空の「新モーダルシフト」 <small>(鉄道、船舶、航空機、ダブル連結トラック、自動運転トラック)</small>	+6.4
宅配便の確実な受け取り	+1.8
ドローンでのラストマイル配送	+2.9
その他(トラック輸送力拡大等)	+0.5
総計(①+②)	+18.7～+10.7～+0.7

(注) 2024年度の貨物輸送量(25.1億トン)を100としている

【2030年度に想定されるトラック輸送の需給ギャップ(イメージ)】



【中長期計画※ベースの次期「物流大綱」を踏まえた施策等による輸送力への効果】

※令和6年2月26日我が国の物流の革新に関する関係閣僚会議決定

	2030年度
必要輸送力	100 (28.4億トン)
施策なしケース	▲34 (9億トン)
施策による効果等	+39.3～+52.6
うち荷待ち・荷役等時間の短縮	+7.5
積載効率の向上	+15.7
陸・海・空の「新モーダルシフト」 <small>(鉄道、船舶、航空機、ダブル連結トラック、自動運転トラック)</small>	+6.6
宅配便の確実な受け取り	+3.0
ドローンでのラストマイル配送	+3.2
その他(トラック輸送力拡大等)	+1.9
貨物輸送量の変化等	+1.4～+14.7

(注) 2019年度の貨物輸送量(28.4億トン)を100としている